

## 〈教育実践研究〉

## 総合的な探究の時間で生徒の可能性を広げる

西山正三\*・水野正朗\*\*

## 1. 研究の背景

水野（第2著者）が、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校の西山先生（筆頭著者）と出会ったのは、産業能率大学セミナー（高校教員対象）だった。五ヶ瀬中等学校は1994年の創設時から「フォレストピア学習」と名付けられた総合学習を特色とし、総合学習の先進校として知られている。西山先生は、この学校で総合学習推進の先頭に立ってこられた。私は、五ヶ瀬中等教育学校の先進的実践の歴史と、西山先生の教育的情熱とその方法論に感銘を受け、それらを論文「ローカルとグローバルをつなぐ総合学習－宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校の事例から」にまとめた。その後、西山先生は宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校から、現在の宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部に2019年に転勤された。学習指導要領に忠実で、どこでもできるスタンダードな総合的な探究の時間のプログラムの構築に挑戦したかったからだという。そこで、定時制課程夜間部という新たなフィールドで「定時制だからできる」探究を追究する取り組みを西山先生ご自身に記述していただいた。本実践論文は、教職科目「総合的な学習の時間の指導法」の教材としても活用していく予定である。

## 2. 研究の目的

私、西山（第1著者）は、13年間、五ヶ瀬中等学校において総合学習推進の先頭に立ってきた。他方、多くの高等学校の「総合的な探究の時間」が充実した学習活動になっていない、形骸化しているという現状がある。「五ヶ瀬だから出来るのだろう」と言われたこともある。先進校のような高度なことに取り組まねばならないという教員の意識が、総合学習の進展をむしろ邪魔しているとも感じる。

どこでもできるスタンダードな総合的な探究の時間のプログラムの構築を目指して、学習指導要領を改めて読んだ。読めば読むほど奥が深く、どういうことを行くとよいか、そもそもどういった探究学習があるのか等、きめ細やかに書いてある。「定時制でもできる、定時制だからできる」をテーマにした本校の取り組みは7年目になる。実践研究を通して、どんなことをすればよいか次第に明確になってきた。定時制課程夜間部は、一昔前の、昼間に仕事をして夜に勉学に励むと言ったイメージと異なり、小中学校に不登校の経験をした生徒が多く入学している。自己肯定感が低かったり、昼夜逆転したりしている生徒が比較的多いと言った特徴があるが、我々は生徒に問題があるとは捉えていない。

多種多様な感性を持つ生徒であり、既存の教科に当てはまらない、小説や料理などといった才能に秀でた生徒だから、そのような特徴を持つのだと捉え（図1）、生徒の得意なものを見つけ進路につなげる時間として総合的な探究の

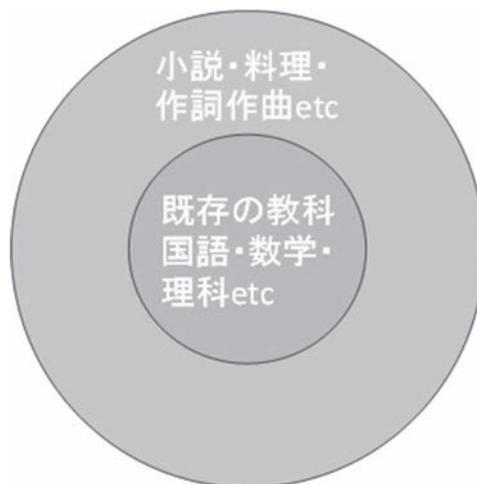


図1 本校生徒の特徴

\* 宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部、\*\* 東海学園大学スポーツ健康科学部教授

時間を行っている。これは、高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編 第3章第2節1(3)「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」等からヒントを得た考えである。

「総合的な探究の時間」の全国完全実施は令和4年度からであるが、本校では「定時制でもできる、定時制だからできる探究学習」というテーマを掲げ、「総合的な探究の時間」を令和元年度より先行実施している。学習指導要領に忠実に則った、定時制でもできるスタンダードな総合的な探究の時間のプログラムを構築することを目指し、少人数教育（職員一人あたりの生徒数が少ない）、宿題も基本的にない（自由な時間が多い）、外部講師も視察の方も夜の時間だから来てもらえやすい等という定時制の特徴を生かし、「定時制でもできる、定時制だからできる探究学習」を目指して実践を続けている。

不登校などの事情によって、やる気が欠如し自己肯定感が低いといった本校生徒の多くに共通する課題を改善するため、毎週火曜日一コマの総合的な探究の時間を、自分を好きになること、自分の関心のあることを見つけて、それを教員や外部講師との対話によって深め広げることにより、定時制の強みである、豊富にある自分の時間を用いて課題を見つけて探究していくこと、さらには探究したことを自己の進路につなげていくことを、探究学習の目的とする。同級生や様々な社会人と接し、実社会に触れ、自分を掘り下げの中で、生きがいを見つけさせたい（図2）。

## 定時制でもできる 定時制だからできる探究学習

「生徒が生きがいを感じるための  
探究活動」

毎週火曜日1コマ



※高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編 第3章第2節1(1)「探究における生徒の学習の姿」

※高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編第3章第2節1(3)  
「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」

図2 探究学習のねらい<sup>1)</sup>

### 3. 研究方法

2022年から、長谷川岳洋校長、植田拓治副校長のリーダーシップのもと、総探プロジェクトリーダーである西山（著者）と各学年一名から二名のメンバーで構成する総合探究プロジェクトチームを結成した。月に一度委員会を開いて具体的に何をどう推進するかを話し合い、「総合的な探究の時間」（以下、「総探」と表記）の年間指導計画や各単元の指導計画などを立案した。総探プロジェクト委員会の提案内容は、校務分掌レベルの会議や職員会議での検討を経て合意を形成し実施を決定した。学年の枠組みを超えて全職員が活動の目的や内容を理解した上で取り組むという体制を取ることができた。実践にあたり、以下のような研究仮説を設けた。

- ①自分と向き合うワークを行い自分の可能性を探れば、自分のことが好きになり生徒の自己肯定感が上がるのではないか。
- ②学習指導要領に忠実に則った、定時制でもできるような総合的な探究の時間のプログラム（図3）を作成実行したら、同様のプログラムが総合的な探究の時間の一つのモデルとして浸透していくの

ではないか。

- ③夜間部は1日4コマの授業で通常4年で卒業できるという、ゆとりあるカリキュラムのため生徒が自由に使える時間が確保しやすいこと、授業が夜間のため外部人材の活用をしやすいことなどから、定時制だからできることを強みに変えることができるのではないか。
- ④少人数のコミュニティのなかにいる伸びしろのある生徒たちだからこそ、学校内外の人材と接することが生徒の成長を促していくのではないか
- ⑤総合的な探究の時間により、学習姿勢の改善や学びを深めようとする意欲を高めることができるのではないか。

## 4. 宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部の探究プログラム

### 4-1 探究プログラムの概要

#### 1年次 自己探究

自分の興味・関心を探り、自分について理解を深めることを目標とする。思考ツール（マンダラート等）を使った自己分析や、哲学対話などを経て、自分の興味のあるテーマについての考察をスライドにまとめて発表する。



#### 2・3年次 社会探究

「自分」から「社会」へと視野を外に広げ、みずからテーマを設定し、探究学習に取り組む。多様な外部講師をアドバイザーとして配置して、社会につながるきっかけとし、多角的な視点やものの考え方に触れ。プレゼンテーションにまとめて発表する。



#### 3・4年次 進路探究

今まで行ってきたワークやノウハウを利用し、進路探究マインドマップや職業人インタビューなどを通して自分の進路を考える。

図3 探究学習の概要

### 4-2 新入年次「自己探究」

これまで不登校を経験している生徒が多く、極端に自己肯定感やメタ認知能力が低いことが予想された。そのため、新入年次（1年生）では「自己探究」をテーマとし、生徒が自分自身のことを知り、好きになる時間という位置づけをした。以下①～⑦に記載しているような、自分と向き合うワークを徹底的に行っている。

#### ①「ガイダンス」1コマ

総合的な探究の時間を行う意義を生徒と共有することから始めた。

現代社会のこれからのキーワードである「AI」や「シンギュラリティ」の言葉に触れ、

Q1：AIという言葉の意味を知っていますか？

Q2：AIが人間の脳を超えるのはどのくらいの時期なのでしょう？

Q3：シンギュラリティと言う言葉を知っていますか？意味は何ですか？

Q4：シンギュラリティはあと何年後に来ると予想されているのでしょうか？

Q5：今後コンピュータの進化によってなくなる職業は何だろう？

Q6：Q5のような社会でも生きていくために必要な力は一体何だろう？

といった質問について考えながら、今後の総合的な探究の時間で何を行うかを知り、どういう人間に成長していくとよりよい人生が送れるのかを考えさせる。

また、フランスの国際バカロレアの課題論文「E E」（履修科目に関連した研究分野に取り組み、研究成果を4000語、日本語の場合は8000語の論文）にまとめたり、アメリカの「エッセイ」などの海外の教育で行われている探究学習にも触れたりすることで、「総探」が世界単位での流れであることを認識する。

「総探」にはテーマがあること。文献のまとめが中心である調べ学習と、自ら課題を発見し、調査や実験を行い、論理的・批判的に思考し、結論をまとめるプロセスを重視する探究学習とは異なることを理解する。学術的意義のある課題を設定し、学問の方法論に基づいて実施し、成果は学会で発表し研究者集団でチェックが必要な「研究」と、調べ学習の違いを明確にし、「研究」を指向して探究学習を行う意義や行う内容などについて確認する。

自分ごと化したテーマにはたどり着くものの、どうしても調べ学習で終わってしまう生徒がいる。調べ学習を克服して、探究学習にレベルアップさせることが、我々の課題の一つである。情報Ⅰの授業でグーグルフォームを扱い、アンケートフォームの作成の手法を学んだり、プレゼンテーションの効果的な作り方などを学んだりすることで「探究的な学び」になんとか近づきたい。

## ②「自分の強みを知ろう」2コマ

自分の強みを知り、自信を持って胸張って生きてもいいのだという気にさせ、自己肯定感を上げるため、チェックシートを3段階に分けて作成する。これにより生徒は自分の強みを段階的に明確にしていく。

「自分の強みを知ろう！その1」では、リクナビNEXT「グッドポイント診断」<sup>2)</sup>を参考にして作成したチェックシートを用いる。親密性や現実志向、慎重性、社交性など強みと思われるキーワードについて自分が当てはまるものにチェックして、自分の強みを把握する。「その2」では、趣味や特技など、知識や人脈、経験、特技、人間性等をキーワードに、例えば「周りの人に30分間話して聞かせる話題は？」等に答えることにより振り返ってみる。「その3」では、「その1」と「その2」で書き出したこれまでの経験を「他人に関わる力」「自分に関わる力」「課題に対する力」の3つの力に分けて分析し、自分の強みを具体的に文章化する。

## ③「月からの脱出」1コマ

NASAが考案したコンセンサス（合意形成）ゲーム<sup>3)</sup>。月で遭難したことを想像しながら、月面に残された15品（例えばマッチ棒や宇宙食、45口径のピストルなど）を自分たちが生存するための重要度順にランク付けを行う。はじめは個人で考えてランク付けし、その後グループ（3～6名）で意見交換しながらランク付けする。最後に望ましいランク（正解）と比較する。ほとんどの生徒が個人で考えるよりも、グループで話し合った方がよい結果が得られている。前述①②のワークと比べても、活発に話し合い活動ができています。

合意を目指した意見交換のなかで異なる見方・考え方に出会い、自分自身の考えを再構成した方がよい結果が得られることを経験することで、今後の「総探」においても協働的に取り組めるようになることが期待される。協働的に学ぶことで、今まで殻に閉じこもってばかりいた生徒が他人と対話をし、他者の意見に触れることになり、自身のメタ認知を鍛えることが可能となってくると考えている。

## ④「マインドマップ」3コマ

マインドマップとは、思考の表現方法のひとつで、中心となるキーワードから関連する言葉やイメージをつないでいった放射状の図である。人間の自然な思考プロセスを反映している。これで頭の使い方を学ぶ。必要なものは紙と色ペンだけ。真ん中には何を持ってきてもよいが、本校では「自分（の似顔絵など）」を真ん中に持ってきて、「自分」のことについていくつでも思いっただけ枝葉を伸ばして書いてもらう。自分がどんな存在であるかを認識し、自分の可能性を見つけたり、広げたりする目的で行っている。

なかなか書けない生徒には「名前、生い立ち、家族、趣味、特技、得意、苦手、好き、嫌い、性格、

宝物、夢、仕事、勉強、ニュース、事件」などのキーワードについて書くことから始める。図4のように立派に枝を広げたマインドマップを作成する生徒もいる。

#### ⑤「マンダラート」7コマ

自分が興味を持っているものについて知識を増やしたり、気づいていない自分の可能性を見つけたりするために行う。マンダラート（マンダラチャート）とは、正方形のマス目の中にアイデアや思考を書き込んで整理したり広げたりする技法である。仏教の曼荼羅模様 に似ていることから、曼荼羅とアートを組み合わせた造語で名付けられた。

大リーグDJアス所属の大谷翔平が高校時代に書いたことでも知られる。自分の好きなことや目指したいことを真ん中に書き入れ、9×9の81マスに関連したキーワードを埋めていく。本校では、自己啓発に加え、読書習慣も付けたいため、読書をしながら知識を増やし、付属で作成した読書シートの「書名」「著者」「出版社」「得た知識」「分からなかった言葉と調べた意味」にも書き入れ、自分の正しい知識を増やしたり関心のあるものを増やしたりできる。場所は図書室で行う。図書室に無い本などはマイラインサービスなどを用いて県立図書館から本を借りる。全てのマスを埋めることよりも、少しでも自分の興味のあるものについて知識を増やすことを重要視している。

#### ⑥「哲学対話」4コマ

哲学は「哲学の思想や概念などの知識を学ぶこと」と思っている人が多いようだが、実際は「問い、考え、語り、聞くこと」である。興味のあることについて「問い」、それについて「考え」、多種多様な人に「語り」、複数の人の話を「聞くこと」である（梶谷，2018）。

2020年から毎年、東京大学の梶谷真司教授に毎週連続計4回のファシリテートをお願いしている。そのうちの1回はオンラインではなく対面で実施し、同時に公開授業を行っている。哲学対話には8つの基本的なルールがあり、自分の意見を話すことが苦手な生徒や自分勝手に話す生徒でも自分の意見を聞いてもらうことや人の話を真摯に聞くことの体験ができる。

##### 「哲学対話の8つのルール」

- ①何を言ってもいい。
- ②人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
- ③発言せず、ただ聞いているだけでもいい。
- ④お互いに問いかけるようにする。
- ⑤知識ではなく、自分の経験にそくして話す。
- ⑥話がまとまらなくてもいい。
- ⑦意見が変わってもいい。
- ⑧分からなくなってもいい。

生徒の身近な問いからテーマ1つを選んでスタートし、対話を通して深い問いへと導いていく。特別な知識や経験がなくても語れるもので、気軽に話せるもので答えが一つでない「開かれた問い」がテーマにふさわしい。「どうして1分は60秒なのか」「どうして人は好き嫌いがあるのか」「なぜ色には名前があるのか」などが、これまでテーマになった。

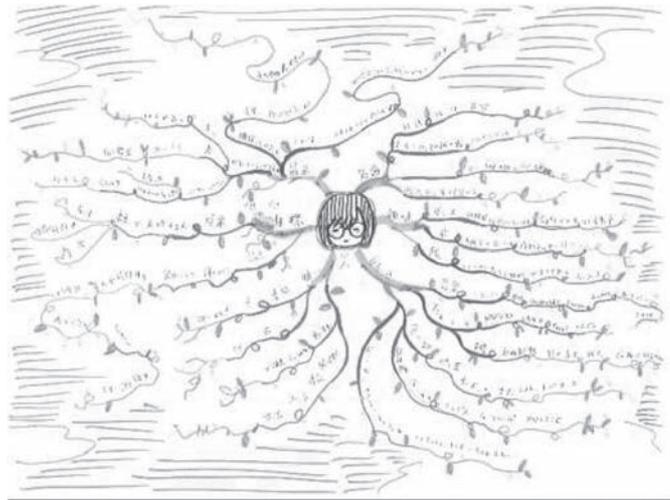


図4 生徒が作成したマインドマップ

最初から全員が活発に意見を言うわけではないが、自由に自分の考えを語ってよい場であることが分かると生徒たちは次第に話をし始め、お互いに心を開いていく。他者の意見を聞いたり、自分の意見を聞いてもらったりする中で充実感を味わい、いろいろな考えに触れて多様性に気づく中で、社会性が養われる。そうした経験は、本校の生徒には特に価値があると思われる。これにより探究活動の中で一番難しいとされる「課題設定」をスムーズにしていくことが可能になるだろうという仮説を立てている。

#### ⑦「5W2Hで問いを立てる」2コマ

哲学対話で「問う」ことの練習をしたあとに、具体的な課題設定をするために英語で用いる5W2H、When（いつ）、Where（どこで）、Who（誰が）、What（何を）、Why（なぜ）、How（どうする）、How Much / How Many（いくら、いくつ）を用いた問い（疑問文）を書く練習を行う。課題設定のポイントを、「自分の興味のあるもの好きなものを題材とする、「……？」という疑問文の形にする、簡単に答えが出ないものにする」とした。

たとえば、問いが「イチゴは赤くなるのか」であれば、「開いた問い」、「閉じた問い」のどちらであるかを考え、それが「閉じた問い」であれば、5W2Hで疑問詞を変える。たとえば、“When”を用い、「イチゴはいつ赤くなるのか」という開いた問いに変えていく。次に「イチゴを長い期間店頭に並べるにあたり最適な収穫時期はいつか」のようにさらに発展した問いにしていき、探究の課題設定につなげる（岡本, 2021, p.65）。

①～⑦までのワークは新入年次のHR担任と副担任とで担当を決めて割り振り、順番に担当の中心を回すことで、教員間の協働意識を高めている。

### 4-3 在校年次「社会探究」

在校年次（2、3年生）では、実際に探究活動を行い、プレゼンテーションにまとめて発表する。「タイトル」「もくじ」「課題設定の理由」「探究内容」「探究方法」「考察」「まとめ」「引用文献・参考文献」を軸として自由にプレゼンテーションを作成する。

不登校、昼夜逆転というバックグラウンドから考えると、極端に社会との接点が限られた中で生活してきた生徒が多く、社会とつながるきっかけも必要だと感じ、一般社団法人 Glocal Academy 代表理事岡本尚也様、株式会社シンク・オブ・アザーズの代表取締役難波裕扶子様、東京大学研究員の田川翔様、農業経営の妙清俊介様、東京学芸大学の田崎智憲様、NPO 法人グローバルアカデミーの桑畑夏生様、東口匡樹指導教諭、三浦章子指導教諭（現校長）、宮崎県キャリア教育コーディネーターの福島梓様、佐藤修史様など、本校の生徒の実態に合うような多くのアドバイザーを配置した。これにより、多角的な視点やものの考え方に生徒に触れさせることができた。

2019年に宮崎大学地域創生学部の学生にメンターとして入ってもらった。新型コロナが落ち着いてきた2024年度からは宮崎大学の教員志望の学生が、「総探」の時間に本校に来て各年次に入りメンターとして一緒に学ぶことをはじめた。このことにより本校の教職員の人数的な負担が減り、より個別最適な学びが実現できるようになった。学生にとっても、探究学習の指導について実地で学ぶことができる。教員志望の学生が昼間は大学の学業を学び、より深く体験的に教職について学びたい学生に関しては定時制の学校がその機会を提供するという一つのモデルとなるのではないだろうか。また、台湾（台南應用科技大学）の梶原宏之先生の協力の下、台湾の学校とオンラインでつなぎ、日本と台湾の文化の違い、例えば、戦争についての考え方の相違などについて、討議することができた。

総合探究成果発表会（後述）の発表は生徒の前で行うが、無理なときには教員の前で行うようにしている。2021年度の探究活動で、3年生女子が作成したプレゼンテーション「ごんぎつね裁判」は、兵十とごんの両方の弁護人の立場に立ち、疑似裁判を行うような内容だった。彼女は、2022年度「自由すぎる研究グランプリ2022」（全国の高校生・高等専門学校生を対象にした自由研究の全国大会）に応募

し、奨励賞に輝いた<sup>4)</sup>。また、2023年度の探究活動では、2、3年次での優秀者3名ずつに話を持ちかけ、第9回高校生国際シンポジウムに応募した。その結果3年生女子が「明治時代の民衆が日清・日露戦争に賛成した理由についての考察」というテーマで最優秀賞を獲得し、Global Link Singapore 2024においてシンガポールで英語で発表する機会を得た<sup>5)</sup>。

#### 4-4 卒業年次「進路探究」

卒業年次（3、4年生）では、今まで行ってきたワークやノウハウを利用して、自分の進路に結びつけることを行う。「進路探究マインドマップ」の作成、インタビュー手法の学習、職業人へのインタビューなどを行い、担任と連携しながら、生徒一人ひとりに即した進路選択や進路決定に直結させていく。

「総探」を4年間経験した生徒たちが、2022年度末に卒業した。在校生を対象とした校内講演において、「進路選択で迷った時にマンダラートを使って自分の考えを整理した」「自分の得意を自己分析で見つけ、それを活かせる資格を取得し、就職につなげた」など、探究学習が進路選択に生かされたことを話した生徒がいた（ベネッセ、2023）。

#### 4-5 教科等横断的学習

『高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編』第8章第2節2 作成及び実施上の配慮事項(3)「多教科等との関連を明らかにすること」や、第10章第3節1 カリキュラム・マネジメントの視点からの評価「教科横断的な視点も含めた学校全体における探究の実現状況を評価し、改善することに努める必要がある」ことの趣旨を踏まえ、総合的な探究の時間を軸として年間学習指導計画のなかに横断的学習の具体的な実施計画を示して実施している。たとえば、新入年次の「総探」ワークで行う5W2Hで問いを立てる前に、英語の授業で5W1Hの学習を行っている。また、研究成果発表の要旨を作成するときのEnglish Titleや英文要旨、キーワード（英語）の作成を英語授業の中で行っている。また、情報Iの授業で、グラフの作り方やゲーグルフォームの練習など積極的に行い、そのスキルが生徒それぞれの探究活動に活用されている。

## 5. 探究発表会の開催

### 5-1 総合探究成果発表会（校内）

『高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編』「第3章第2節1(1) 探究における生徒の学習の姿」(図4)に掲載されている「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルの「まとめ・表現」にあたる場として総合探究成果発表会を行っている。作詞作曲をする生徒や絵画をする生徒も「まとめ・表現」の部類に入り、十分な探究活動のサイクルを回していると判断し、創作活動についても認めている。

11月に総合探究成果発表会の予選を生徒全員が行い、その代表者各学年3名が1月に本選で全校生徒や教員、視察の方達の前で発表を行い、金賞・銀賞・銅賞（各1名）を決定する。新入年次は課題の設定まで、在校年次以上は探究活動の内容や成果についてプレゼンテーションを行う。12月の予選ではプレゼンテーションを各学年所属の教員が審査し、1月の本選では外部人材が審査する。12月の予選について人前で話すことが苦手な生徒が多いため、「総探」初年度は先生の前だけで発表することにしたが、3年目以降は、1年生以外は学年の生徒全員の前で発表することにした。また、1月本選は、初年度は教員が発表会を運営したが、次年度以降は生徒主体で運営を行った。こうして1年次にワークを通して課題を設定し、2・3年次に探究をして発表する流れが確立できた。

## 5-2 過程重視探究発表会（全国大会）

『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』「第10章第2節 評価基準の設定と評価方法の工夫改善」において「生徒がどのように探究の過程を通して学んだかを見取ることが大事である」と書いているが、そのような過程を重視した発表会はほとんど行われていないため、定時制における「総探」全国大会という位置づけで「過程重視探究発表会」を企画した。

本校をホストとしてリモートで開催し、外部人材に審査を依頼した。本校の代表者は「総合探究成果発表会」（本選）で審査した2、3年生の上位2名である。2022年度から開催しているが、1年目には本校に加え、青森県立三沢高等学校、福岡県立ありあけ新世高等学校、福岡県立ひびき高等学校がエントリーし、金賞2名銀賞2名銅賞3名を決定した。

## 6. 職員研修・公開授業

### 6-1 教職員研修

1年目に、「探究学習の目的や意義」を全教職員で共有するために職員研修を行い、探究学習をスタートさせた。1年目は、ほとんど私が一人で計画を作成し、プレゼンテーションや資料も作成していた。2年目以降は職員研修時に年間計画のみを提示し、あとは教員全員でワーク毎や生徒毎に割り振りを行い実施することとした。教員全員に割り振りをすることに関して、最初は不安だったが、とにかく口出しをせずに見守ることを徹底した。

私の作成した資料をそのまま使う方もいれば、オリジナルの資料を作成する方もいた。

探究プログラムを開始して3年目からは、ラウンドテーブル形式で「総合的な探究の時間」に対する教員全体の意見の吸い上げと共有を行った。ラウンドテーブルとは一人の発表者と一人のファシリテーターと一人の記録者と数名の参加者で構成し、テーブルを囲み、テーマに即して自由に意見を交換する場である。本校では、哲学対話的手法をとるため、「①何を言ってもいい。②人の言うことに対して否定的な態度をとらない。③知識ではなく、自分の経験にそくして話す。④意見が変わってもいい」のようなルールで行い、職員の意見を直に吸い上げるようにした。ラウンドテーブルで挙がった意見を以下に挙げる。

- ・生徒から「総合的な探究の時間の部活動を作ってほしい」「1時間では足りない。夏休みもしたい」と言われた。
- ・話せなかった生徒が人前で話せるようになった。
- ・教員同士のサポートが助かった。
- ・マンガラート、マインドマップで生徒の主体的な進路実現につながった。
- ・教科にとらわれないから「総探」で自分の力を発揮できる生徒が出てきた。
- ・教師自身の教育観の変容が必要である。
- ・教科『公共』における哲学を連動させると面白い。
- ・東高校で学べてよかった（卒業生へのアンケートより）と満足度が高いのは、「総探」の学びがあるからではないか。

以上のように肯定的な意見が多く出された。外部からの刺激、新しい情報を仕入れるため、また、本校の総合的な探究の時間の実施内容を客観的に見るため、職員研修の場に外部講師に来てもらうようなことも行った。職員の「総探」への理解を深めるため、リクルートの山下真司様（現在、ベネッセコーポレーションに所属）に各高校の取り組みについて紹介してもらった。また、「進路とつながる探究学習」という題名で同じく山下様や産業能率大学の林巧樹様に講話をしていただいた。

## 6-2 公開授業

『高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編』「第10章第3節1 カリキュラム・マネジメントの視点からの評価」に「実際に授業を公開し、総合的な探究の時間で探究する生徒の様子を直に見てもらうことで理解を広げることも大切にしたい」とある。このことも踏まえ、2021年度には「哲学対話」のために梶谷教授が来校されるタイミングで公開授業を開催した。2022年度には哲学対話の模様や教室で探究学習を行っているところを公開した。40名程度の参加があり、本校職員とのラウンドテーブルを開催し、哲学対話的手法を用いて意見交換をした。外部からの参加者から以下のような感想をいただいた。「この実践はもう少し県内の定時制高校や小規模高校で共有されるべきだと思う。運営や計画は大変なことは重々承知しているが、ぜひとも第二回を実現してほしい」「御校の取り組みを定時制のモデルケースとして、まずは全国の定時制学校とネットワークを築いてほしい」「非常に具体的かつ膨大な資料をいただき、感謝しかない。県内とは言わず、小規模の定時制高校はこの宮崎東の実践をベースに探究活動を検討すればよいと感じたほどです」。

## 7. 総合的な探究の時間の評価

文科省は高等学校指導要録の書き方（参考様式）を明示しており、各高等学校はそれに準拠して生徒一人一人の指導要録を作成することが義務づけられている。「総合的な探究の時間の記載」については、各生徒の「学習活動」「観点」「評価」を文章によって記述することになっている。

「学習活動」には行った学習活動の概要を記入し、「観点」には学校で定めた「総探」の目標を踏まえた3観点（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）について記入し、「評価」では各学校が設定した観点を踏まえ、生徒の学習状況及び身につけた力や成果について記入する（図5）。本校はそれに合わせてシラバスを作成し、3観点の目標と評価基準を明確にしている（図6）。

さらに「総合探究成果発表会」「過程重視探究発表会」において生徒のパフォーマンスを審査する際の評価シートもこの3観点を反映して、評価項目を設定している（表1）。

## 8. 自己肯定感を育む進路指導

「総探」における探究学習が、進路実現により影響を及ぼす生徒が次々として出てきている。ある生徒は、マインドマップに取り組んだときに、自分がファッションに興味を持っていることに気づき、アパレル関係に就職するという目標を持ち、進学先を選ぶことができた。また、別の生徒は、中学校までは、「人づき合いが苦手」、「数学が苦手」などと、自分の苦手なことばかりに目を向けていたが、「総探」のい

総合的な探究の時間において行った学習活動を記入する。 (本文 p.78～87)	生徒氏名	学 事 一 郎	
	総合的な探究の時間の記録		
	学 習 活 動	観 点	評 価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究課題は「防災」で、過去の災害の被害状況をグループで調べた。被災地の方々とオンライン上で交流し、実際の復興経過について話し合った。</li> <li>防災訓練の体験活動を通して緊急時の対応を身につけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に身を守るための知識と対処法</li> <li>協働的な学びを通して、問題解決力の向上</li> <li>自助共助の意識を高め、ボランティア活動に参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所で生活した体験談を聞き、女性や社会的弱者に対する視点の必要性に気づき、自校の体育館を想定した避難所運営の企画をグループで発表した。</li> <li>これを機に普通救命講習Ⅰを取得した。</li> </ul>

各学校で定めた総合的な探究の時間の目標を踏まえ、3観点について記入する。  
(本文 p.78～87)

各学校が設定した観点を踏まえ、生徒の学習状況及び身につけた力や成果について記入する。  
(本文 p.78～87)

図5 総合的な探究の時間の記録記入例

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
観点別目標	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	探究に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
評価 規 準	使える 活用II	教科・科目等の枠組みを超えて、様々な事柄を知ることができる。	身近な人々や社会、自然に興味・関心をもち、意欲的に関わろうとする主体的、共同的态度がある。
	できる 活用I	生徒自ら知識を習得し、理解を深めることができる。	身近な人々や社会、自然に興味・関心を持ち、アンケートなどを行える。
わかる	習得	教科書レベルの知識を習得している。	身近な人々や社会、自然に興味・関心を持つことができる。
評価方法	文献調査	中間発表会 総合探究成果発表会	授業態度 発言 アンケート

図6 総合的な探究の時間「社会探究」のシラバス（一部抜粋）

表1 総合成果発表会の評価基準表

宮崎県立宮崎東高等学校定時制過程夜間部 総合探究成果発表会 評価表				
社会探究(在校年次)				
		評価基準	点数	小計
知識・技能	①	声の大きさや速さに気を配り、聞き取りやすく話しているか。(5点)	1 2 3 4 5	
	②	図・表等の使い方が適切で、効果的に活用しながら発表しているか。(5点)	1 2 3 4 5	
	③	時間設定～1分(1点)、～2分(2点)、～3分(3点)～4分(4点)、～5分(5点)、超えたら0点。	1 2 3 4 5	
	④	複数教科の知識が横断的に取り入れられているか。(5点)	1 2 3 4 5	
表 判 思 現 断 考 力 力	⑤	テーマ設定の動機や問いが明確に示され、深い(答えがない、もしくはすぐに答えが出ない。社会的意義がある。等)ものであるか。(5点)	1 2 3 4 5	
	⑥	調査・実験方法が適切で、他の文献等からの引用だけでなく、自らの実験や取材等に基づいたものになっているか。(5点)	1 2 3 4 5	
	⑦	参考文献や引用がしっかりとされているか(2点) 著作権にかからないようにしているか(3点)	1 2 3 4 5	
	⑧	調査・実験の結果を客観的に分析し、自らの考えや展望が述べられているか。(5点)	1 2 3 4 5	
学 び に 向 か う 力 ・ 人 間	⑨	じっくりと粘り強く探究活動(アンケートや実験の数が非常に多い、探究に自分の休日などを使って行っているなど)を行っているか。(結果や成果は出ていなくともよい)(13点)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	
	⑩	今後の探究活動が明確で的確であり、研究内容に発展性が感じられるか。(5点)	1 2 3 4 5	
	⑪	普段の授業で、しっかりと探究に向かい合っていたか。(12点)※本校担当教員が記入する。	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	
A I	⑫	A Iの総合評価(30点)		
所見(特記事項があればお書きください)			合計	
発表(できた・できなかった①②③⑤⑥⑦⑨⑩0点)				
生徒の前で発表(できた・できなかった①②⑤⑥⑨0点)				
			点	

ろんなワークや探究活動により、自分を振り返り、「地道な作業を厭わない」、「タイピングスキルに秀でている」といった、自分が持つ資質・能力を自覚することができ、高校在学中にプログラミング言語に関する資格を取得し、上級学校へと進学した。また、ある生徒は、自分の好きなアニメーションに関する事柄を4年間、ずっと調べていたが、アニメーションというテーマに触れていくうちに、アニメーションそのものではなく、アニメーション制作に関わる職業にも関心を持つようになり、社会で自立するためには資格を取得した方がよいのではないかと考え、それから独学で簿記の勉強を始め、わずか2か月で日商簿記検定2級に合格し、その後、商学を学ぶために4年制大学に進学した<sup>6)</sup>。

また、反戦を探究のテーマとした生徒は、台湾とリモートでつなぎ、台湾と日本との戦争に関する意識の違いを皮切りに、世界の戦争の継承についての違いを探究した。これにより、英語についての関心が広がり、英語の教員に自ら習いに行ったりして英語検定2級資格を取得した。ゆくゆくは英語に関する職業に就きたいと明確な意思を持ち、意欲的に学校生活を送っている。

## 9. 探究学習の成果

宮崎県が2021年度の卒業生に学校生活に関する満足度のアンケートをとったところ、本校定時制の場合、「部活動」を除いたほぼ全ての質問項目で80%以上の肯定的な回答があった。「学校・学科の学習内容、進路」「学校・学科の学習内容について学んだことを誇りに思う」「さらに学習を深めようとする意欲」「総合的な学習の時間または課題学習（課題研究）」についての満足度が特に高かった。長谷川岳洋校長は、本校の総合的な探究の時間が学習内容の充実について良い影響を与えていると分析している。

探究学習は学力に結びつかないという教員もいるが、本校で2020年度（令和2年度）から行っているベネッセコーポレーションの基礎力診断テストの経過を見ると、カリキュラム上、国語の授業が2年次に全く無いのにもかかわらず、2年次から3年次に上がるときに国語の成績が上がっている。これは「総探」が国語力を上げる効果があると言えるのではないかと。数学なら統計的手法、英語なら English Summary の作成、理科・社会なら専門的知識でのアプローチなど、今後さらに他教科でも総合的な探究の時間を軸として積極的に横断的な学習を取り入れていけば、その名の通り総合的に学力を上げるための教科となる可能性を感じる。

三菱みらい育成財団の2021年度助成に本校が応募したところ採択された。そして、その活動内容が評価され、準グランプリを獲得した。財団ホームページには本校の助成プログラム成果発表のレポートと動画「生徒が生きがいを感じるための探究活動」が掲載されている。本校の取り組みがコンパクトに約8分の動画でまとめられているのでご覧いただきたい<sup>1)</sup>。本校の取り組みが知られはじめると、講演や取材などの依頼が増え、文部科学省や教育委員会からの視察もあるなど、本校の研究成果を発表し、取組みを広げることもできた。文部科学省中央教育審議会の「高等学校教育の在り方ワーキンググループ」第4回に招かれ、生徒とともにリモートで報告をした。そのときの議事録はネット上で公開されている<sup>7)</sup>。

さらに2025年9月、文部科学省が運営するサイト「マナビカエル 高校の学びを次の時代へ」に本校の探究活動が紹介された。タイトルは「探究で救われる生徒は必ずいる。宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部の『定時制だからできる』探究」である<sup>8)</sup>。

## 10. まとめと今後の課題

以上のことから、研究仮説①から⑤は達成でき、定時制でもできる探究学習を提示することができたと考察する。

課題を設定するための方法は、あらかじめSDGsや学校独自（環境、経済格差、自然観察、高齢化、エネルギー等）のジャンルを決めておいて、それに沿って行う方法、先生の得意分野を提示して生徒を割り振ってマッチングさせていく方法、哲学対話を用いる方法、自分の好きなものを見つけるワークを行う方法などいろいろあるが、自分の好きなもの興味のあるものを課題にすれば、とことんやっていく生徒が増えることが実証できた。

前述した「高等学校教育の在り方ワーキンググループ第4回」で、生徒から「私にとって、探究活動は自分を表現することができると思っています。ほかの場所が、嫌なことがあって楽しくなくても、火曜日の1コマがあるから、学校というものに行けると感じるものがあって、そういう1コマとか、10分でも、最低限自分がやりたいことができるもので選べるという話があったらいいなと、最低限あったら学校が楽しいだろうなと思います」という発言<sup>7)</sup>に象徴されるように、総合的な探究の時間（総探）は、生徒の目を学校に向ける一つの手段であることを示すことができたと考える。

ここまで述べてきたようなことをそのまま他校でも実施すれば、文科省が提示している探究学習は実現できるとハードルを下げたつもりである。今後の課題として、本校の取り組み方法が広まって、各学校の参考となることを期待している。本校は定時制のパイロット校としての存在感を増していきたい。本校の「総探」によって、自分と向き合うことができ、自分の好きな「もの」「こと」を自覚して課題設定まででき、自走していく生徒が増えてきた。しかし、その一方で、深まりが十分ではない生徒もいる。先生方や外部アドバイザーの対話スキルや専門的知識に期待し、取り組みのさらなる向上を図りたい。

そして、定時制だからできることをもっと前面に押し出していきたい。昨年度の過程重視探究発表会の参加校が4校だったので、さらに仲間を増やして規模を大きくしていき、結果よりも過程を重視する本来の探究学習の在り方を提示していきたい。また、本校定時制課程における「総探」の取組みに学校教員を目指す大学生が参加できるようにして生徒に伴走してもらうことは、高校側としても指導する視野を広げるメリットがあり、学生にとっては「総探」を実際の学校現場で経験することで、生徒理解と指導力を高めるというメリットがあることが分かった。この面も継続的に発展させていこうと考えている<sup>8)</sup>。

- 1) 宮崎県立宮崎東高等学校定時制夜間部「2021年採択カテゴリー1：生徒が生きがいを感じるための探究活動」一般財団法人三菱みらい育成財団 2024年8月19日情報取得 (<https://www.mmfe.or.jp/partners/860/>)
- 2) リクルート「グッドポイント診断 リクナビNEXT」2024年8月19日情報取得 (<https://next.rikunabi.com/goodpoint/>)
- 3) 野原グループ株式会社「チームビルディング大百科：コンセンサスゲーム「NASAゲーム」とは？【解答つき】」2025年8月19日情報取得 (<https://teambuilding.patia-kitchen.jp/column/211/>)
- 4) 日本探究部（株式会社トモノカイ）「自由すぎる研究グランプリ」2025年8月19日情報取得 (<https://tankyu-japan.com/ISGP2022/>)
- 5) 一般財団法人次世代教育ネットワーク機構「Global Link Singapore 2024」2025年8月19日情報取得 (<https://www.edunet.or.jp/gl/singapore/>)
- 6) ベネッセ「VIEW next 高校版 2023年度4月号【紙面連動】マイ・ストーリーを語る生徒を育む進路指導 詳細紹介」2025年8月19日情報取得 (<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article14677/>)
- 7) 文部科学省「高等学校教育の在り方ワーキンググループ（第4回）議事録」2025年8月19日情報取得 ([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/091/gijiroku/mext\\_00003.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/091/gijiroku/mext_00003.html))

- 8) 文部科学省「探究で救われる生徒は必ずいる。宮崎県立宮崎東高等学校 定時制課程夜間部の『定時制だからできる』探究」『マナビカエル 高校の学びを次の時代へ』  
2025年9月30日情報取得 ([https://www.mext.go.jp/manabikaeru/interview/2027/index\\_00004.html](https://www.mext.go.jp/manabikaeru/interview/2027/index_00004.html))

## 引用文献

- ベネッセ (2023) 「宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部『自分を知る』探究学習を通して自己肯定感を育み、進路を開く」『VIEW next 高校版 2023 April』50-51 頁.
- 梶谷真司 (2018) 『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』幻冬舎.
- 岡本尚也 (2021) 『課題研究メソッド よりよい探究活動のために』新興出版社啓林館.
- 水野正朗 (2019) 「ローカルとグローバルをつなぐ総合学習 - 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校の事例から -」『東海学園大学教育研究紀要』第3巻, 71-79 頁.